

事務 事業名		コード1	0245 防犯対策事務費		課	総務課						
		コード2	防犯指導業務		所屬班	地域安全班						
					電話番号	62-5311	内線	262				
政策 体系	基本方針	1	安全で魅力のあるまちづくり		予算	会計				款	項	目
	施策	3	交通安全・防犯対策		科目	一般会計				02	01	11
	施策の展開	4	防犯体制の充実		根拠	旭市安全で安心なまちづくり条例						
	基本事業	46	防犯活動の推進		法令	旭市防犯指導員設置規則						

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述⇒	① イベントや広報誌等を通じて、防犯に対する意識の啓発として、講演会(平成23年度～)を開催したり、啓発用物資を配布する。 ② 各区から推薦された防犯指導員やシルバー人材センターへの業務委託により、平成21年度から青色回転灯車両を使用した市内一円の防犯パトロールを実施している。 ③ 警察や学校、防犯団体等と連携・協力して有効な防犯活動を実施するため、防犯組合連合会の事業実施に対して補助金を交付したり、旭駅前警察官立寄所の維持管理費用(光熱水道費や建物の修繕費や保険料等)を負担(昭和56年度～)している。 【業務の流れ】 ① 情報収集、啓発物資の用意・配布、広報原稿の作成、市民への周知、防犯講演会の実施 ② 委託契約の締結、関係者への実施通知、防犯パトロール講習会の実施、パトロール車の維持管理、車両による防犯パトロール ③ 事前に警察と協力し情報収集、資料作成、総会開催通知、総会開催、資料まとめ、事業実施、立寄所管理費の支払

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業 費	財源内訳	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円				1,838		
一般財源		千円	2,291	3,309	3,735	4,714		
事業費計(A)		千円	2,291	3,309	3,735	6,552	0	0
人 件 費	正規職員従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10		
	延べ業務時間	時間	196	202	196	206		
費	人件費計(A)	千円	745	768	745	783	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,036	4,077	4,480	7,335	0	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ・防犯講演会の開催、産業まつりのイベント及び広報誌により啓発事業を実施した。 ・青色回転灯装着車両による防犯パトロールを実施した。 24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・防犯講演会の開催、産業まつりのイベント及び広報誌による啓発事業の実施 ・青色回転灯装着車両による防犯パトロールの実施	ア 防犯講演会の開催数やイベント等への参加	回数	5	4	4	6		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 防犯指導員によるパトロール実施日数	日	157	157	154	154		
	市民及び任意団体	ウ 業務発注によるパトロール実施日数	日	90	260	259	260		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	防犯に対する意識が高くなり、さらに知識を得る。	ア 防犯講演会への参加者数 (防犯に対して興味を持ち始めるか)	人	—	—	200	250		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 防犯講座の依頼件数 (積極的に知識を身につけたいと感じているか)	件	1	1	3	3		
	地域ぐるみで防犯講座を受講し知識を共存することにより、犯罪のない安全で住みよいまちづくりを実現する。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (推計)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的		ア 旭市内の犯罪件数 (減少傾向にあるか)	件	1053	887	819	678		
		イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
防犯対策は、警察や行政だけで実施するのではなく、民間や地域ぐるみと連携した防犯活動の貢献度が高い。	24年度より移動交番が開設され、概ね20日／月くらいで所定の場所に配置されている。 また、干潟駅には交番が設置されており、最近ではコンビニ等も警察官の立寄所となっている。	・小学校低学年の保護者から、下校時だけでなく登校時のパトロールも実施してほしい。 ・防犯パトロールで巡回するコースについて、人通りの少ない場所も巡回してほしい。

事務事業名	防犯対策事務費 防犯指導業務	課名	総務課	班名	地域安全班
-------	-------------------	----	-----	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつかないか？意図することが上位目的に結びついているか？ 防犯指導員及びシルバー人材センターへの業務委託により、防犯パトロール活動は一年を通じて実施し、犯罪の抑止に努めている。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 市民一人ひとりが防犯に対する意識が高まり、また、地域ぐるみでの連携した防犯活動は防犯対策の貢献度が高いため適切と判断する。
	③ 行政関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？ 旭駅前警察官立寄所の維持管理費用については、建物・設備が老朽化している、移動交番を活用する等を考慮すると、必要性を検討する余地がある。
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？ 市主催で防犯講演会を実施しているのは、近隣では旭市だけである。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？ 旭駅東側の市営駐輪場には防犯カメラを設置した。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ↓ (1) 事務事業名：(学校教育課 青少年センター活動費) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 現在、すでに防犯活動地域の重複がないよう連携している。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) 車両による防犯パトロール活動において、防犯指導員による回数を増やしたり自主防犯組織の協力が得られれば、シルバー人材センターへ委託する業務量を削減できる。 また、移動交番を旭駅周辺に配置することにより立寄所を廃止することができ、維持管理費用を削減できる。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？ 防犯パトロール業務時間については、防犯指導員が欠席の場合、応急的に職員が代わりにパトロールを実施している。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 防犯講演会は、旭地区だけの開催であるため、今後は他地区での開催も検討する必要がある。
公平性 評価		

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	一部地域では防犯意識が高いが、地域による意識格差がある。行政が主導で地域に根付くよう指導したい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☒ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		
---	--	---